自治連会報なは

那覇市自治会長会連合会　TEL/FAX 911-3509
沖縄県那覇市銘苅2丁目3-1　なは市民協働プラザ3階

第58号
2025(令和7)年
4　月

令和6年度自治連全体研修会
自治連・沖大・協働推進課が連携開催！

自治会長会連合会
会長　田島　繁

はいさい！　ぐすーよーちゅーうがなびら。自治会長をはじめ行政機関の皆さまには日頃から那覇市自治会長連合会の取り組みに対し、ご理解・ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

那覇市自治会長会連合会全体研修会が開催されたことにあたり、ご挨拶申し上げます。

本研修会は今年度最終行事としまして毎年開催しており、これまでは、防犯・防災・福祉・文化歴史・健康・次世代の人材育成・自治会加入促進など、様々な研修を行って参りました。

本年度は「これからの自治会と地域自治を若者と共に考える」～共感から共創～をテーマに、前半は、「なはユース自治大学（沖縄大学学生）」受講生による体験発表や自治会長・公民館館長・学生によるシンポジウムが開催され、後半は、各グループに分かれて、自治会長と学生と一緒に討議し、結果発表が行われました。

今年の干支である巳年は「成長」「変革」「新しい挑戦」などの意味を持つ年とされています。まさにこれからの自治会と地域自治を若者と共に考え行動する時期が今年です。

連合会としましても「新しい挑戦」が4月よりスタートします。「自治会を増やそう」キャンペーンを自治会長はじめ、関係各位の皆様と共に新規開拓・深耕開拓に取りくんで参ります。お互いが持てる力を存分に発揮して、知恵を出し合い、団結して一つ一つの課題を解決して参りましょう。

結びに、この度の研修会にあたり、多大なご協力を頂いた沖縄大学の山代寛学長をはじめ、経法商学科の島袋隆志教授、学生の皆さん、沖縄国際大学ボランティアサークル「ひこ」のみなさん、当該全体研修会運営委員会の方々、他全ての関係者の皆様と「令和6年度 なは市民活動支援事業」補助金を活用させて頂き、このような素晴らしい「シンポジウム」と「全体研修会」が開催できたことに対し心より感謝申し上げ挨拶と致します。

イッペーニフェディビル、宮古島の方「タンディーガ　タンディ」、石垣島の方「ミーファイユー」、日本最西端与那国島の方「アラーグフガラッサ」。

千思万考

ウチナーグチの〝アコークロー〟はなかなか意味深な言葉である▼「薄明かりが残っている夕暮れ時、たそがれ時」をさすアコークローは、夕日が沈む一瞬の、昼とも夜とも言えない美しくロマンチックな風景を連想する一方、マジムン（魔物）が出没する時刻として細心の注意を払う時間帯であることも意味している▼今年1月、米ワシントン近郊で旅客機と軍用ヘリが空中衝突し両機に搭乗していた67人が死亡したのは日没後である。一年前の羽田で日航機と海上保安庁機が接触した事故はアコークローの時刻であった▼目視ができそうで十分にできず、機械等に頼らざるを得ない場面に切り替わるが、なんとも不安定な一日の転換点である▼さて、県内では桜の満開が各地で伝えられている。もうすぐ入学式・入社式の時期である▼ピカピカの小学校一年生、社会人として新たな人生を踏み出す若者たち、職場での異動など、新年度のスタートにあたって是非アコークローの両面を意識して、昼と夜の境目には老若男女を問わず、お互い特段の注意を払うよう心掛けたいものである。

（前原信達　編集委員長）

一、沖縄大学島袋ゼミ学生の発表！
～地域体験から地域の強み弱みを考える～

沖縄大学の学生たちは、松島、古島、石嶺ハイツ、銘苅新都心、小禄泉原、真地団地の各自治会長の案内でフィールドワークを行い、地域の課題を探り、その解決策についての学生提案を発表しました。全体を通じて、若者の自治会参加促進、世代間交流の活性化、地域資源の活用、デジタル技術の導入など、未来につながる具体的な提案が多数示されました。

これらの提案が今後の地域づくりに活かされ自治会、大学、行政が共に歩む「地域共創・未来共創」の実現につながることが期待されます。

(1) 松島自治会

【課題】若者の自治会参加率の低下と高齢化の進行
【提案】①進学・就職に有効なボランティア証明書を活用しポスター掲示などで認知度を高める②高校生・大学生が小中学生の宿題をサポートする「学習支援活動」を通じて若者が地域活動に関わる機会を創出③長期休暇中に子ども食堂を実施し地域の子どもへの支援と若者が活動に参加する機会を提供。
【展望】世代間の交流を深め、地域の歴史や魅力を次世代に伝える活気ある自治会づくりを目指す。

(2) 真地団地自治会

【課題】若年層の参加不足と役員の担い手不足
【提案】①青年会・子ども会を設立し若者がエイサーやイベントを通じて自治会に関わる機会を増やす②祭りやスポーツ大会を定期的に企画し家族ぐるみの参加を促進③高校・大学の授業で自治会訪問を取り入れ地域に対する関心を高める。
【展望】地域コミュニティの活性化と若い世代が継続的に自治会活動に関われる仕組みを整える。

(3) 古島自治会

【課題】若者の認知度不足と自治会参加率の低さ
【提案】①InstagramやTik-Tokを活用し自治会活動や地域の魅力発信。イベント時にSNSのフォロー特典を提供し認知度を向上②飲食店やイベント情報など地域の魅力を発信し住民が自治会活動に関心を持つきっかけを作る③スポーツ大会や地域清掃活動を通じ若者と高齢者が交流する機会を提供。
【展望】若者が気軽に参加しやすく地域の活力を生む自治会を目指す。

(4) 銘苅新都心自治会

【課題】単独世帯の増加と自治会加入率の低さ
【提案】①ラジオ体操や公園での交流会などを企画し子どもから高齢者までが楽しめる機会を提供②公園清掃や防犯パトロールを継続し地域の安全・安心な環境を維持③地域資源を活用した祭りやワークショップを開催し住民が主体的に参加できる環境を整備。
【展望】地域の魅力を再発見し住民同士のつながりを強める自治会を目指す。

(5) 小禄泉原自治会

【課題】高齢者の増加に伴う情報伝達の難しさ
【提案】①大学生が講師となり、高齢者を対象にスマホの基本操作やLINEの活用法を教える②高齢者の移動負担を軽減するため買い物支援としてネットショッピングの代行支援サービスを提案③自治会専用のLINEグループを開設しイベントや防災情報を効率的に共有。
【展望】デジタル技術を活用し地域住民が情報を共有しやすい自治会づくりを目指す。

(6) 石嶺ハイツ自治会

【課題】地域情報の共有不足と高齢者の孤立
【提案】①高齢者宅への定期訪問を実施し生活状況の確認と安全を確保②夏祭りやクリスマス会などを企画し、地域住民の交流を活発化③地域イベントに学生ボランティアを招き、活動への理解と参加意欲を高める。
【展望】地域のつながりを強化し孤立を防ぐための見守りネットワークの構築を目指す。

二、公開シンポジウム！
～地域自治を若者と共に考える～

学生発表を受け、シンポジウムでは自治会関係者、学生、行政関係者が登壇し、自治会活動の活性化について議論を行いました。

主な議論のポイントは下記のとおりです。

【主な議論のポイント】

① 若者の自治会・地域活動への関わり

・沖縄大学や沖縄国際大学の学生がフィールドワークに参加し、地域の課題や資源を学んだ。

・学生が子ども支援や地域イベントに関与し、自治会との新たな関係構築が進んでいる。

・若者が自治会を「地域課題を解決する場」と捉え、積極的に関わりたいという意識がある。

② 地域資源の活用と課題

・公園や自然など、地域の資源を活かしたまちづくりの可能性が議論された。

・交通の利便性や住民の交流の場の不足など、解決すべき課題も明らかに。

・各自治会が独自の資源を活かし、交流の場を作る取り組みが求められる。

③ 世代間交流の重要性

・自治会の掲示板や新聞などの紙媒体を好む高齢者と、SNSやLINEなどを活用する若者との情報伝達の違いが指摘された。

・若者と高齢者の交流機会を増やし、自治会を多世代が関わる場にしていく必要がある。

・高齢者は自治会の「強み」として捉えられるべきであり、地域活動の重要な担い手である。

④ 自治会と学校・企業の連携

・小中高校の授業に地域学習を組み込む動きが広がっており、自治会が教育機関と連携する意義が再認識された。

・自治会と大学が連携し、地域資源を活かした学びの場を提供することで、若者の自治会参加を促すことができる。

・企業とも連携し、地域活動を支援する仕組みを作ることが望まれる。

⑤ イベントを通じた地域のつながり

・祭りやスポーツイベント等の地域行事は住民のつながりを強める重要な機会となる。

・子どもや若者が関与しやすい形でのイベント企画が求められる。

・イベントを通じて、自治会の存在を地域住民に広めることができる。

⑥ 行政と自治会の連携

・自治会の「加入率」よりも「参加率」を高めることが先決という意見があった。

・行政としても、自治会活動の活性化を支援する施策を模索する必要がある。

・新しい自治会長への研修や学びの場が求められており、大学と連携して「自治会講座」を開設する案が提案された。

【シンポジウム】

司会進行
沖縄大学教授　島袋 隆志

登壇者
・銘苅新都心自治会
会長　前原 信達
・松島&古島自治会
会長　西平 博人
・那覇市繁多川公民館
館長　南 信乃介
・那覇市まちづくり協働推進課
課長　屋比久 尚也
・沖縄大学生
2年次　安座間 桜音
・沖縄大学生
3年次　上原 大和

首里自治会長連絡協議会

会　長　佐和田　健治

副会長　宮城　修　　副会長　末吉ヒサ子
副会長　謝名堂　聡　　書記会計　仲座　方久

那覇市首里久場川町 2-18-9　首里支所内

那覇市本庁管内自治会長会

会　長　伊地　柴基

副会長　山内　京子　　副会長　徳元　律夫
書　記　児玉久美子　　会　計　樫山　弘子

那覇市銘苅 2-3-1　なは市民協働プラザ３Ｆ

三、自治会長会連合会全体研修会！
～地域自治のこれからを共創する～

学生発表、シンポジウムを受け、9のグループに分かれて全体研修会（ワークショップ）を行いました。研修会は、自治会の未来を多様な視点から考える貴重な機会となりました。今後とも自治会、行政、大学、企業が連携し、「共感から共創へ」をテーマに、持続可能な住民主体の地域づくりを進めて行く必要があります。

議論の中では、以下のような具体的な提案がなされましたので紹介します。

【全体研修会の議論概要】

① 情報発信の強化
・SNS（Instagram、LINE、YouTubeなど）を活用し、自治会の活動を広める。
・自治会のホームページを更新し、若者がアクセスしやすい情報を提供する。
・小学校・中学校にポスターを掲示し、地域イベントの周知を強化する。

② 若者の興味を引くイベント企画
・伝統文化（エイサーなど）の体験イベントを開催する。
・ダンスやスポーツ（モルック、パークゴルフ）を通じた交流の場を提供する。
・季節ごとの行事（ハロウィン、餅つき、クリスマスイベントなど）を開催し、若者や親子の参加を促す。

③ 自治会活動のインセンティブ
・自治会活動に参加した若者へポイントを付与し、ボランティア証明書を発行する。
・就職活動や進学に役立つような自治会活動の仕組みを作る。

④ 学校との連携
・大学のゼミやサークルと自治会をつなぎ、若者の関わりを深める。
・小中高の授業に自治会活動を取り入れ、地域の魅力を学ぶ機会を提供する。

⑤ 自治会の運営改革
・若者が主導する自治会のサブ組織（青年会など）を作り、自由な活動を促す。
・高齢者主体の自治会から、若者と共創する組織へと変革していく。

【今後の展望】

(1) 若者の自治会参加を促進
大学・企業と連携し、自治会活動を身近に感じられる機会を増やす。

(2) 多世代交流を活性化
高齢者の知識や経験を活かし、若者との交流機会を創出する。

(3) 地域の資源を最大限に活用
公園やイベントを活かし、住民が主体的に関われる仕組みを整える。

(4) 自治会の新たな学びの場の創出
自治会長や住民が学びながら自治会運営を進められるような場を作る。

小禄地区自治会連合会
会　長　上原　博
副会長　前花　友克　　副会長　我如古正樹
監　事　渡真利　浩
那覇市宇栄原 4-2-2　小禄支所内

真和志自治会長連絡協議会
会　長　田島　繁
副 会 長　西平　博人
書記会計　門下　長徳
那覇市与儀 1-3-21　那覇市保健所３Ｆ

四、研修会のねらいと総評！
～「なはユース自治大学」の大成功～

「なはユース自治大学」は、令和6年度の「なは市民活動支援事業」に採択された事業で、那覇市自治会長会連合会と沖縄大学島袋ゼミ、那覇市まちづくり協働推進課の三者が連携・協働して運営する初めての試みであった。

事業の背景として、地域自治会の必要性は若者から高齢者まで全世代を通して感じているものの、現状は自治会組織の高齢化と加入率の低下が著しい状況にあり、このため各自治会においては、次世代を担う若者(ユース)の声を受け止めながら若者が参加しやすい地域自治会のあり方や環境づくりが求められていた。

一方、沖縄大学においても長期ビジョンに掲げている〝地域がキャンパス、地域のキャンパス～沖縄大学は「知」と「人」の交流拠点となります〟の実現にあたって、若者世代が自治会や地域について学び、地域社会に貢献できる人材の育成が求められていた。

また、市行政でも、地域住民自らが地域づくりに参画し、自分ごととして他の団体等とも連携しながら地域課題解決に取り組んでいける社会を目指していることから、市民協働による地域自治の推進が強く求められている状況にあった。

その三者の想いが「なはユース自治大学」の事業につながった。事業の実施にあたっては4つの達成目標・目標数値を設定した。この目標数値の達成状況がそのまま事業の評価となる。

1つ目は5支部からそれぞれ一つの自治会を選出して学生への「講話」と「フィールドワーク」を実施することである。これは大学・行政側のガイダンスを含めて4月から7月にかけて行った。学生が講話と実体験を通して地域の魅力や課題に気づくだけでなく、地域の強みを伸ばし弱みを改善するための提案が取りまとめられたことは大きな成果であった。

2つ目は公開シンポジウムの開催である。自治会長、学生、公民館長、担当課長が登壇したシンポジウムでは、学生がまとめた5つの地域自治会の現状と学生提案を受けて、島袋教授のコーディネートのもと若者が参加しやすい環境づくりと、継続していくための方策が深堀りされた。

3つ目は自治会長会連合会の全体研修会である。学生発表とシンポジウムを踏まえ、引き続き自治会長と学生を交えての全体研修会（グループワークショップ）を行った。沖縄大学の学生に加えて沖縄国際大学ご三の学生やまちづくり協働推進課職員、那覇市社協職員も加わり意見交換した。9に分かれたグループ全てがまとめの発表を行うことで各グループワークの内容を共有することができた。

4つめがシンポジウムとワークショップを受けての参加者アンケートである。

〝満足度5段階中4以上が8割〟を目指したアンケートの結果は、約40人の回答者のほぼ全員が「とても良かった」、「良かった」と答えた。この結果が今回の「なはユース自治大学」の大成功を物語っている。自治会長会連合会と沖縄大学、那覇市の三者の当初のねらいは達成されたといえる。

課題としては自治会長の参加者とアンケートの回答者が予定よりも少なかったこと、報告書作成までの時間が短かったことなどがあげられよう。

最後に、本事業を通して得た多くのヒントを各自治会長が持ち帰り、時代を見据えた取り組みの可能性を広げ、今後とも安全で楽しく住みよい地域づくりに取り組まれることを願う。また、参画した学生においては今回の体験を活かし、地域社会に貢献できる人材として引き続きご活躍されることを期待したい。

すーびさかば
路地酒場
まあちゅう
大小宴会承ります
沖縄県那覇市小禄1－20－26 1F
TEL/FAX 098－858－1888
営業時間 15:00～翌1:00

那覇市営住宅自治会長会
会　長　上原　幸吉
副会長　石原　幸勇　　副会長　友利　榮吉
書　記　玉寄　秀一　　会　計　白岩　　享
那覇市銘苅2-3-1　なは市民協働プラザ３Ｆ

五、参加者アンケート結果

アンケートに回答された方の総数は四十三人でした。そのうちの二十九人(七六.七%)が「とても良かった」、九人(二〇.九%)が「良かった」と答えています。残りの一人は無回答でした。

回答者の概ね全員が良かったと評価していることから、今回の研修会は大成功だったといえると思います。なお、回答の内訳は次の表のとおりです。

以下に自由記入欄からの声をいくつか紹介します。

属　性	とても良かった	良かった	普通だった/あまり良くなかった	無回答	計
自治会	8	7	0	1	16
沖縄大学	11	1	0	0	12
沖国大Uni	11	0	0	0	11
一　般	3	1	0	0	4
合　計	33 (76.7%)	9 (20.9%)	0	1 (2.3%)	43 (100%)

①自治会

・これからは積極的に若者もスタッフになってもらい若者の参加するイベントを開催したい。

・若者の考えとギャップが大きい事に気づかされた。

②沖縄大学

・今の那覇市の様々な自治会の問題点や現状について知るとても良い機会に参加できて良かった。

③沖縄国際大学Uni

・那覇という限定した地域でも自治会ごとに様々な特色や課題があることに気づきました。私たちの知らないところで自治会長さんは地域のために色々と悩み考えていることが分かったので私も力になりたいと思いました。

④一般（社協など）

・若者の意見や自治会への参加の入り口が知らないということが分かった。

那覇の史跡・旧跡06
真和志地区②

真和志間切番所跡（まわしまぎりばんじょあと）

琉球王国時代の「間切（まぎり）」は現在の市町村にあたる行政区域で、「間切番所」は間切役人が村々の耕作状況や年貢収納などの監督・指導を行った役所。真和志間切は天久・識名・国場など12カ村で構成され、間切番所は上間村に置かれた。1879年（明治12）の沖縄県設置を経て1908年（明治41）には沖縄県及島嶼町村制の施行により、間切は村に村は字になった。真和志村役場はその後、1926年（大正15）に現在の真和志支所敷地（寄宮２丁目）に移転し、1957年（昭和32）には那覇市と合併したことにより那覇市真和志支所庁舎となった。現在、庁舎の老朽化により那覇市民会館跡地への新築移転（複合施設）が進行している。

「那覇の史跡・旧跡ガイドブック」（那覇市歴史博物館）参考

居酒屋　守礼
宴会なら守礼、３千円コースから皆様のご来店をお待ちしております
〒903-0806 那覇市首里汀良町1-29
電話 098-885-4467
地域の皆様に感謝です

熱意と誠実さはどこにも負けません
葬儀のコーエー社
ご葬儀の依頼は24時間365日
0120-01-6660
家族にやさしい葬儀保険
コーエー社HP
1万円で生涯会員
月会費0円
IF共済会　会員募集

～ 協働によるまちづくりコーナー ～

まちづくり協働推進課　TEL:861-3846　FAX:861-3126
〒900-0004　那覇市銘苅2丁目3-1　なは市民協働プラザ3階

○地域自治功労者表彰式並びに市政懇談会を開催しました！

１月29日（水）にダブルツリー byヒルトン那覇首里城において、「令和６年度 地域自治功労者表彰式並びに市政懇談会」が開催され、多くの皆様にご参加いただきました。

第一部の表彰式では、これまで地域住民の福祉増進及び地域自治の振興発展に貢献してこられた自治会長の皆様（特別表彰 ８名、一般表彰 12名の計20名）に知念市長から表彰状が贈られました。

また、知念市長より、コロナ後の影響も未だある中、工夫を凝らしながら地域活動に取り組まれ、地域の絆を紡がれていらっしゃることに感謝の言葉がありました。

第二部の市政懇談会では、自治会長と各部局長との懇談が行われ、大変有意義な場となりました。

また、長田２丁目大倉ハイツ自治会によるフラダンスの余興や、懇親会で交流を深め会場はおおいに盛り上がりました。

受賞された皆様の地域活性化へのご尽力に深く敬意を表するとともに、心からお祝いを申し上げます。おめでとうございます！！

古民家食堂（こみや）
新潟から築130年の古民家を移築。沖縄で古民家食堂として新しい命が誕生。各種定食・沖縄そばをご堪能下さい。
南風原町大名260-1　電話：098-888-3918
営業時間：11:00～22:00（ラストオーダー21:30）
定休日：毎週水曜日
自治会に大好評！オードブルの注文も承ります。

株式会社N3クリエイト
松島自治会･古島自治会の会長をしている西平博人が代表をしている会社です！
地域を演技レッスンやお芝居で活性化させる事業も行います。
ご興味ありましたら、お声掛けください！
代表　西平博人　090−8292−8523
ホームページQRコード

各種補助金申請について

まちづくり協働推進課では、自治会活動の活性化や円滑な運営が行えるよう、各種補助事業がございます。今年度も申請を受け付けておりますので、ぜひご活用よろしくお願いいたします。

①那覇市自治会及び準備委員会等事業補助金
コミュニティ活動の活性化を目的として自治会が実施する親睦事業等に対し、補助金を交付します。

②自治会掲示板の新設及び修繕補助金
広報掲示板の設置又は修繕に要する施工費の一部に対し補助金を交付します。

③自治会事務所賃借料補助金
自治会事務所について土地・建物を賃借する場合に補助金を交付します。

④自治会集会所の建設及び改修等事業補助金
集会所の建設及び修繕等に対し、工事費の３割以内かつ、予算の範囲内で補助金を交付します。

他にも（一財）自治総合センターの「宝くじの社会貢献広報事業」から助成される「一般コミュニティ助成事業（備品補助）」「コミュニティセンター助成事業（建設補助）」がございますのでお気軽にお問合せください。

自治会でホームページを開設している場合は、まちづくり協働推進課まで情報提供をお願いします。より多くの市民に見ていただけるように当課のホームページでも紹介をさせていただきます。

※まちづくり協働推進課ホームページ ➡

話題・トピック

～「令和６年沖縄県北部豪雨災害義援金」をお届けしました！～

沖縄県北部地域では、令和６年11月９日未明から10日にかけて降り続いた記録的豪雨により、川の氾濫、住居の床上・床下浸水、住宅や家財等の損壊など甚大な被害を受けました。

そこで、那覇市自治会長会連合会では、被災された方々の生活の立て直しにお役立て頂くため、令和７年２月25日に連合会を代表して役員４人が国頭村を訪れ、知花靖村長に義援金348,000円を手渡しました。知花村長からは、義援金を有効に活用させていただくことなど、感謝の意が伝えられました。

編集委員会より

自治連会報なは９月号では「なはユース自治大学」の中間取り組み状況を特集しました。

今回の４月号では、その最終報告として、①沖縄大学島袋ゼミ学生の取りまとめ発表、②地域自治を若者と考える公開シンポジウム、③那覇市自治会長会連合会の全体研修会の詳細を特集しました。

自治会の未来を多様な視点から考える貴重なヒントがたくさん詰まっていますので、参加がかなわなかった自治会においても、本特集号を是非参考にして、時代を見据えた取り組みの可能性を広げ、今後とも安全で楽しく住みよい地域づくりに取り組まれることを願います。